ディスコグループ指定健診項目

健診の検査項目は下記のとおりです。

注意！社員･被保険者の方は契約指定医療機関機関以外で健診を受診する場合でも、★(法定項目）については、必ず受診して下さい。

★：法定項目（必須）　○指定項目（医療機関によって実施していないことがあります）　◇受診推奨項目

【注目】2025年度限定キャンペーン！指定医療機関での人間ドック＆40歳以上の家族健診、子宮検査の補助額が大幅に増額になります（下記表赤字箇所）

健診コース/検査項目			指定項目	契約医療機関健診			
				被保険者		被扶養者	
				社内巡回含む定期健診	人間ドック（定期健診かどちらか選択）	家族健診	
年齢				全年齢	35歳以上	40歳未満	40歳以上
社内定期健診＆指定医療機関健診費用補助	基本項目			全額補助	6万円まで補助	全額補助	全額補助
	胃部			補助なし		補助なし	3万円まで補助
	子宮がん			全額補助（子宮頸部細胞診、子宮エコー、子宮体がん、ＨＰＶ検査）			
	乳がん			乳腺エコー（視触診がある場合はそれも含む）は全額補助 ※マンモグラフィーは被保険者35歳以上＆被扶養者40歳以上は全額補助			
	前立腺がん			50歳以上の前立腺がん検査（オプション追加分）は全額補助			
基本項目	身体計測	身長	★	○	指定項目（★）以外の項目は、医療機関によって異なります	○	○
		体重	★	○		○	○
		腹囲	★	○		○	○
	眼科検査	視力(裸眼･矯正)	★	○		○	○
		眼底	○（35歳以上）	○（35歳以上）			○
	聴力	1000･4000Hz	★	○		○	○
	血圧	収縮期血圧･拡張期血圧	★	○		○	○
	心電図	安静時12誘導	★	○		○	○
	胸部X線	胸部X線（直接撮影）	★	○		○	○
	血液検査	空腹時血糖	★	○		○	○
		HbA1c	○	○		○	○
		総蛋白（TP）					
		ALB		○		○	○
		GOT	★	○		○	○
		GPT	★	○		○	○
		γ-GTP	★	○		○	○
		総ビリルビン					
		アミラーゼ		○		○	○
		総コレステロール		○		○	○
		中性脂肪（TG）	★	○		○	○
		HDLコレステロール	★	○		○	○
		LDLコレステロール	★	○		○	○
		尿素窒素（BUN）	○	○		○	○
		クレアチニン（Cr）	○	○		○	○
		尿酸（UA）	○	○		○	○
		白血球（WBC）	○	○		○	○
		赤血球（RBC）	★	○		○	○
		血色素量（ヘモグロビン）	★	○		○	○
		ヘマトクリット	○	○		○	○
		MCV					
		MCH					
		MCHC					
		血小板数	○	○		○	○
	尿検査	蛋白	★	○		○	○
		糖	★	○		○	○
		潜血	○	○		○	○
	便検査	便潜血（免疫学）2回法	○	○		○	○
	問診	特定健診問診	○	○		○	○
選択項目と補助額	胃部検診	胃部Ｘ線（バリウム検査）			○ いずれか1つ選択		○ いずれか1つ選択
		胃部内視鏡（胃カメラ）					
		ＡＢＣ検査※5年に１回推奨					
	婦人科 子宮がん検診	子宮頸部細胞診		◇	◇	◇	◇	◇
		子宮エコー					
		子宮体がん細胞診					
		HPV検査					
	婦人科 乳がん検診	マンモグラフィー		◇（35歳以上）	◇	◇	◇	◇
		乳腺エコー		◇	◇	◇		◇

【任意医療機関での受診】上記指定以外で受診する場合には、下記の補助が出ます（要事後申請）

＜人間ドック＞ 上限3万円

＜オプション検査補助＞ 定期健診受診の35歳以上被保険者には、別途上限3万円まで健保補助

＜被扶養者健診補助＞ 20歳以上の被扶養者には上限1万円健保補助(40歳以上には別途上限1万円までオプション検査補助あり)

＜婦人科検診補助＞ 子宮がん　4,000円＆乳がん　6,000円まで補助（35歳以上被保険者＆40歳以上被扶養者はマンモ＆エコー受診で10,000円まで補助）

＜前立腺がん補助＞ 前立腺がん　2,000円まで補助（50歳以上）

【契約医療機関でのオプション検査･婦人科検査追加時の注意】

受診券に表示されている自己負担額は健保からの補助上限を超えた額（＝自己負担額）です。

オススメのオプション検査項目

ディスコ健康保険組合およびディスコグループとして、オプション検査としてオススメする検査項目をご説明します。

検査項目		説明
胃	胃部Ｘ線	上部消化管(胃、食道、十二指腸)の形の変化や異常の有無を調べる検査です。 造影剤であるバリウムをのんでから、透視台と呼ばれるX線装置の台の上で検査を行います。
	胃部内視鏡	ABC検査（胃がんリスク検診）ではわからない、胃、食道、咽頭のがんや逆流性食道炎などを発見することが出来ます。 40歳以上の方は一度検査することをお勧めします。特に、家族に胃がんの人がいる場合は、定期的に検査を受けることをお勧めします。 胃カメラが苦手という方には、最近では、鼻から入れるタイプや麻酔を使うタイプの検査もあります。（医療機関にお問い合わせ下さい。）
	胃がんハイリスク検診 （ＡＢＣ検診）	ピロリ菌感染の有無と、胃粘膜の萎縮度（ペプシノゲン）を採血検査で判断することで、胃がんになりやすい人か、なりにくい人かを判断する血液検査です。
胃・肝臓・腎臓など	腹部エコー	超音波を腹部にあて、腹部臓器の状態を調べる検査です。 胃や腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓、大血管の様子を観察することができます。検査は、X線やCTなどと違い、被爆もなく安全な検査です。短時間で非常に多くのこと（脂肪肝や胆石、腎結石、肝臓がんなどの可能性）を知ることができます。
大腸	大腸内視鏡	肛門から内視鏡を挿入して大腸全体を観察する検査です。初期のがんやがん化する恐れのあるポリープを発見することができます。40歳以上で１回は受けることをオススメします。
社内定期健診 ＆指定医療機関 健診費用補助	肺機能検査	機器に息を吹きかけ、酸素を取り込む能力などを調べる検査です。肺年齢や呼吸器の病気の有無とその重症度がわかります。初期のCOPD(慢性閉塞性肺疾患：肺の働きが低下し、せき、たん、息切れなどの症状がみられる病気）を発見することが出来ます。COPDの主な原因は喫煙ですので、40歳以上で喫煙歴がある人は定期的に受けることをオススメします。
	胸部（ヘリカル）CT	CTスキャンで肺や気管、気管支などの病変を見つけるために行う検査です。特に、胸部X線検査では見つけられない肺がんを見つけられます。肺がんの大きなリスク要因は「喫煙」ですので、1日の喫煙本数×喫煙年数=600以上の方は一度受けてみるといいでしょう。
肝炎（B型・C型）	HBs抗原、HBs抗体 HCV抗体	血液検査で、B型肝炎、C型肝炎にかかっているかを検査します。国内のがんによる死亡者のうち、肝臓がんは年間約3万人で第4位です。その肝臓がんの9割はB型・C型肝炎ウィルスが関連すると言われています。ウィルスに感染していても自覚症状はほとんどなく、気づかないうちに肝硬変や肝臓癌に進行する場合があります。肝炎ウイルス検査を受けたことがない方、自分が感染しているかどうか分からない方は、一度検査を受けてみてください。
腫瘍マーカー ※血液検査によるがん検査	PSA（男性）	血液検査で前立腺がんの可能性を調べます。50歳以上は前立腺がんのリスクが高まりますので、毎年の受診をオススメします。特に、近親者に前立腺がんの患者さんがいる人は40歳ころから積極的に検査を受ける方がいいでしょう。
	CEA	胃がんや大腸がんなどの消化器系がんの腫瘍マーカーです。喫煙でも上昇することがあります。
	AFP	主に肝臓がんのふるいわけ検査の一つです。肝臓がん以外でも胃がん、肝硬変、肝炎でも値が上昇することがあります。
	CA19－9	主に膵臓がんや胆道がんの発見に有効な検査です。また、膵臓や肝炎、胆石でも基準値を超えることがあります。
	CA125	主に卵巣がんの発見に有効な検査です。また、子宮筋腫や子宮内膜症でも基準値を超えることがあります。
子宮がん	子宮頸部細胞診	頸部細胞診はやわらかいヘラやブラシのようなものを膣に挿入し、子宮頸部の粘膜を軽くなでるように採取します（PAPテスト）。まれに少しの出血があることはありますが、痛みはほとんどありません。 経膣エコーでは、子宮頸がんや子宮体がんだけでなく、子宮筋腫の有無、卵巣嚢腫なども一緒に見ることができます。子宮頸がん検査と一緒に受けることをおすすめします。 20～30代での発症が増えているため、20代以上では2年に1回受けるよう推奨されています。
	HPV	ヒトパピローマウイルス（Human papillomavirus： HPV）という子宮頸がんの原因となるウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。感染しているからといって必ず子宮頸がんになるわけではなく、ほとんどが一過性の感染で自然消失します。平均で10年以上の長い期間を経て子宮頸がんになる可能性がありますので、感染していた場合、定期的に検査を受けることになります。HPV検査は、頸部細胞診と同時に検査することができます。
乳がん	マンモグラフィー	30歳から64歳までの働き盛りの女性のがんによる死亡の1位になっており、15人に1人が一生涯に一度は乳がんになるとされています。早期発見の最大のメリットは「乳がんで死ななくてすむ」という確率が高いことです。また、早期発見であれば乳房を温存するなど、自分の希望する手術法や治療法を選択できる可能性も高く、また治療期間なども短くなることが多いので、経済的負担も軽くすみます。 乳腺エコーは乳房に超音波をあててがんのしこりを見つける検査。マンモグラフィーは乳房を板のような装置にはさんで圧迫し、レントゲン（X線）で小さなしこりを見つける検査。 20～30歳代の方は乳腺の密度が高く、マンモグラフィーでは詳細に判断できない場合があるため、乳腺エコーでの検査をオススメします。
	乳腺エコー	

ディスコ健康保険組合